

令和2年第1回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 1番	氏名 石川 敏	質問形式: 一問一答
1. 件名	公共施設・公有財産の管理について	
<p>村が保有する公共施設・公有財産は多く、維持管理には毎年多額の経費を要している。多くの施設で修繕改修や更新を迎え、財政負担が大きな課題になってくると思われる。さらなる管理経費の削減と、施設の最適化を図る管理計画が求められる。</p> <p>行政施設、公園施設、学校・教育施設、村営住宅などの公共施設及び公有財産の管理が適切に行われているのか、その考え方について問う。</p>		
1. 各施設の年間維持管理経費と財源内訳及び施設の管理体制は		
2. 指定管理委託業務について見直しする考えはないか		
3. 学校・教育施設の管理状況に問題点はないか		
4. 第六次総合計画における公共施設管理に関する位置づけは		

通告順位 2番	氏名 佐野 英俊	質問形式: 一問一答
1. 件名	村誌編さん事務について	
<p>令和2年2月の総務民生常任委員会に提出された村誌編纂室報告資料の「村誌編纂関係資料の調査収集進捗状況について」によると、編さん対象となる119選択事業中の91事業について調査収集が完了したとのことで、村誌の続編発行に向けて事務が大きく進展したと評価し、村誌編さん事務の進捗状況について問う。</p>		
1. 村誌編さんの基本方針を策定しないのは何故か		
2. 関係課ごとに区分された選択事業の選択方法は		
3. 歴史を知る住民、役場OBからの聞き取りは		
2. 件名	台風19号による稲わらの処理について	
<p>村内のほ場等から椀田の仮集積場へ搬入・保管されている推計580トンの稲わらの処理について問う。</p>		
1. 予定する処理方法と検討経過について		
3. 件名	水道事業のみやぎ型管理運営方式について	
<p>昨年11月、県議会においてみやぎ型管理運営方式の導入を前提とした条例が可決され、令和4年4月から大崎広域水道事業も「みやぎ型」による運営に移行されるが、村の受け止め方について問う。</p>		
1. 水道事業「みやぎ型管理運営方式」をどのように捉えているか		
2. 「大崎広域水道事業」から給水を受けているが、村水道事業への影響は		

令和2年第1回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位	3番	氏名	赤間 しづ江	質問形式:	一問一答
1. 件名	職員の人事行政について、職員が意欲を持って働ける環境をどうつくるか				
職員一人ひとりが能力を發揮し、意欲を持って働ける職場環境をどうつくるか。					
1. 人事異動は、どのような基準で行われているのか。基本的な事項について聞きたい					
2. 同一課内勤務が長い職員や、逆に1～2年で異動する職員も見受けられる。どのような考え方に基づいて対処しているのか(技術職・専門職を除く)					
3. 全職員を対象に実施しているストレスチェックから見えてくる課題は					
4. 健康・人間関係・ハラスメントなど、職員の相談窓口体制をどう整えているか					
5. 職員の資質向上と人材育成を目指し、継続的な研修計画の考えは(接遇から実務研修まで)					

通告順位	4番	氏名	佐々木 春樹	質問形式:	一問一答
1. 件名	イノシシ被害の現状と対策は				
イノシシによる被害や駆除頭数は増加し続けている。昨年の9月議会でも質問しているが、鳥獣被害対策実施隊の皆さんとの連携強化は図られているのか。					
1. 現在の被害状況等をどのように総括し対応しているのか					
2. 実施隊の皆さんとの話し合い等はどのように行われ、どう対応したのか。体制づくりは進んでいるのか					
3. 長野県塩尻市の事例を検証検討したいと答弁しているが、その結果は					
4. 「止めさし」のできる後継者育成について進展はあるのか					

令和2年第1回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 5番	氏名 小川 ひろみ	質問形式: 一問一答
1. 件名	学校教育の充実について	
学力の低下・不登校など多くの問題を抱えている状況の中で、第六次総合計画(案)が示された。学校教育での現状と課題をもとに、どんな目標と施策の方向を考えているのか。		
1. 一村一校の本村の良さ、課題は(こども園・小学校・中学校連携の取り組みなど)		
2. 不登校などへの対策は		
3. 学力向上の取り組みは		
4. 子ども達が行うボランティア活動の取り組みは		
5. 小学校の新学習指導要領では外国語活動時数が増えるが、その対応は		
2. 件名	大規模太陽光発電施設の規制を	
2017年4月に改正された「再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)」では、売電業者は従来義務化されていた一般電力を通さず、電力小売業者への直接販売ができるようになった。山林等を買収し造成して大規模太陽光発電施設(メガソーラー)の造成用地を確保するケースが増えている。土砂流出・洪水などの自然災害や、野生動物への影響が全国的に問題となっている。		
1. メガソーラー建設に対して自治体条例での規制を 平成30年第3回定例会の一般質問で村長は、条例制定を前向きに検討すると答弁しているその後、いくつかの自治体で規制条例が制定されているが、本村の状況は		
2. 太陽光発電パネルの廃棄・リサイクルに向けた計画的な対応を 事業終了や事業所が倒産したあとの太陽光パネルの撤去、廃棄、リサイクルなども全国的な課題となっている。産業廃棄物化や感電などのリスクも懸念されるので、計画的な対応が必要ではないか		

通告順位 6番	氏名 文屋 裕男	質問形式: 一問一答
1. 件名	大瓜木通川と大森高森水路の改修の考えはあるか	
木通川は上流が広く整備されているが、下流は狭く細い水路のようになっている。		
高森水路は東北自動車道の側溝が広く、流れた流水は一気に水田にあふれ、村道を越えて被害をもたらす構造となっている。		
そのため、大瓜木通川と大森高森水路は、関東東北豪雨や今年の台風19号で甚大な被害が発生した。		
下流の川や水路を整備すれば被害を軽減できると思われるが、その考えはあるか。		